

鳴子温泉郷

(宮城県大崎市)

注目ポイント！

まち歩きの楽しさと農作業体験を取り入れた活性化に取り組む。
良質な温泉と医療機関との連携により健康づくりに貢献。



継続的に約200万人以上の観光入り込み！(H16、217万人)



鳴子峡

コラム

一店逸品運動の中心となる鳴子の元気集団“でっぺくらぶ”の阿部会長。全国各地で活性化のアドバイスをしている野口智子先生(ゆとり研究所長)の話に「今までとは違う」と感銘を受け、鳴子に招待。現在のメンバーの皆さんと運動に着手した。そのなかで会長の逸品、「山菜押し寿司」が生まれた。



でっぺくらぶ会長
阿部 真也氏

これまでの経緯

- 平成11年(1999) 国立療養所の経営移譲を受け、自治体立委譲病院・全国第2号として町立鳴子温泉病院(現 大崎市民病院鳴子温泉分院)が設立される。
- 平成13年(2001) 鳴子町一店逸品運動開始。中心商店街の活性化と観光客との交流を図る。「ほっとサロン」を整備する。
- 平成14年(2002) 鳴子町観光協会で温泉療養部会設立宣言。「湯めぐりチケット」による「街を歩けば下駄も鳴子」キャンペーンを開始する。「ほっとサロン」での交流「ほっとフェア」を開始する。
- 平成16年(2004) 鳴子ツーリズム研究会を設立する。どぶろく製造や市民農園開設等の鳴子温泉郷ツーリズム特区が構造改革特区に認定される。

主な取り組み

体験型観光への取り組み

鳴子地区には日本こけし館があり、5,000体ものこけしを展示。こけし工房では、こけしの絵付けも可能。また、鳴子ツーリズム研究会は湯治客による田植え(農業体験)と湯治を組み合わせた「田植え湯治」を企画。田植えに留まらず、種まきから脱穀に至る稲作の一連の農作業毎に開催。



絵付け



湯めぐりチケット

まち歩きの魅力高める

温泉郷五つの地区と多様な泉種を楽しめる「湯めぐりチケット」は、商店街での割引や特典が付加されている。

宮城大学や鉄道会社等との連携により、活性化事業として始められた取り組みが、まちを象徴するフレーズ「街を歩けば下駄も鳴子」として定着。日帰り客等の誘致に繋がった。

温泉療法で健康づくり

温泉の泉質が他種類にわたる特色を生かし、温泉療法プランとして旅館が企画・実施。温泉療養と鳴子温泉分院の診療やリハビリテーションの指導を受ける体制を整備。他にも予防医学としてのドック受検に応じる介護ヘルパーへの取り次ぎ等、温泉と医療の連携を図る。



温泉療養

一店逸品運動の取り組み

商店街の一店ごとに、他に真似できない味や技量の目玉商品を作りだして販売。鳴子のお土産にもなっている。

地域や観光客との交流の場として店舗を活用した「ほっとサロン」を整備。商店街の方々が交替でおもてなし。お茶、逸品の話とまごころに「ほっと」する交流を提供。



ほっとフェア

問い合わせ先

大崎市鳴子総合支所観光農林課

Tel : 0229 - 82 - 2026 E-mail : n-kanko@city.osaki.miyagi.jp

鳴子温泉郷観光協会

Tel : 0229 - 82 - 2102 <http://www.naruko.gr.jp>